

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（10月）

留学先：The University of Findlay

氏名：本田 涼哉

フィンドレーではますます寒さが増しており、冬が本格的に始まりました。これからどんどんと気温が低下し、雪も降るそうなので、体調管理に気を付けて毎日を過ごしていきたいと思います。

◎Funday Sunday (Oct. 1st)

10月はFunday Sundayというボランティア活動から始まりました。このボランティア活動は月に一回開催され、フィンドレー市内から子どもを招待して、さまざまな体験の機会を与えるという目的の元で行われています。この活動では、子どもたちはフェイスペインティングを楽しんだり、絵本の朗読完了会に参加したりと教育的な遊びを楽しむことができます。例年、教育を専攻している日本人留学生が行っているということもあり、企画に参加することを決めました。主に企画して下さるのは、フィンドレー大学にあるMazza Museumという施設の方であり、それ以外のサポートは地域の方が無償で行う。地域と大学、そして子どもをつなぐ、魅力的な活動であると考えています。

私は日本文化ブースを担当し、現地の子どもたちに日本文化を教える機会をいただきました。「WANAGE (Ring toss)」をテーマとして、日本の文化を少しでも楽しみながら知ってもらおうと思い、立案しました。子どもたちは純粋に楽しんでくれ、保護者の方々も日本語に興味を持ってくれました。これからもこの活動を継続的にを行い、日本文化を広めていきたいと思っています。



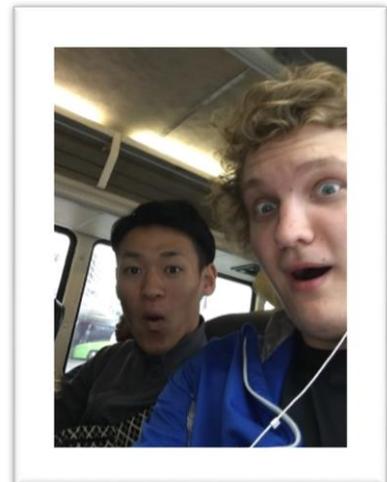
◎Fall Break (Oct. 14th ~ 17th)



秋学期の中間が過ぎたころ、テストからのリフレッシュも兼ねて、オハイオ州を一人旅してきました。一週間前に計画した弾丸旅行なので、宿泊先の場所も全く見当がつかないまま体一つで旅をしてきました。オハイオ州でも指折りの大都市、首都コロンバスとクリーブランドに行ってきました。オハイオ州の首都であるコロンバスでは、年に一度開催されるコロンバスマラソンに参加してきました。元々福井大学でも陸上部に所属していた私にとって、海外のマラソンに参加することはとても魅力的で、出発前から留学先でやっておきたいことの一つとして考えており、参加申し込みも出国前に行いました。朝7時半からハーフマラソンはとても苦しく辛いと感じましたが、コロンバスの町の風景を目に、風を感じながら走ったハ

ーフマラソンはずっと記憶に残ると思います。

コロンバスで宿泊した後、次の日の朝にコロンバス周辺を観光し、北にあるクリーブランドという都市に向かいました。クリーブランドは、バスケットボール、アメリカンフットボール、野球がとても盛んで、美術館や博物館も多く、非常に栄えた都市でした。クリーブランドでの旅では、人との出会いがとても印象的でした。クリーブランドに向かうバスの中では、隣に座った方が、偶然同じ大学生ということもあって話が盛り上がり、クリーブランドのバス停からホテルまで車で送ってくれ、非常に親切にしてくれました。別れる時には、すっかり友達になっており、その後も連絡をくれました。その友達には感謝しかありません。さらに、UBERという車乗り合わせの携帯アプリを使って、クリーブランド内を移動する際、ドライバーの方ととても仲良くなり、人の温かみを感じる事が出来



ました。クリーブランドでは、ウェストサイドマーケットという食品市場で食べ歩きをしたり、Rock 'n Roll Museum に足を運んだり、自由に旅をしました。

一人で旅をすることは、不安でしたが、今回の旅で少し自信がついたと思います。何より、人とのつながりを作れたり、いろいろな景色を自分の目で見る事が出来たりと、本当に一人旅をして良かったと思います。特に印象的だったのが、コロンバスとクリーブランドという2つの大きな都市に行きましたが、大都市の影には貧しい生活や荒廃した町が隠れていました。このようなメディアには映らない部分を知ることができて本当に良かったと思います。

◎Elementary Spanish I Quiero estudiar el español!

私が今学期受講している授業についても紹介していきたいと思います。私は、「留学先で英語以外の自分の武器を身に付ける」という目標を掲げていました。英語教育を専攻し、普段から英語を勉強してきた私ですが、英語はあくまで初歩的なものであり、それ以外の武器を身に付けてこそ、世界に通用する人になるのではないかという私自身の考えに基づいてこのような目標を掲げました。

英語以外の言語にも興味があった私はスペイン語の授業を受講することにしました。スペイン語はアメリカでの需要が高い言語です。ラテンアメリカの背景を持つ人々が多く存在するため、スペイン語はアメリカでの第二公用語と言っても過言ではありません。そのため、多くの場所でスペイン語の表記を見ることが出来ます。そのため、アメリカの学生にとってスペイン語は慣れ親しみのある言語で、さらに言語構造がよく似ていることから、アメリカの学生は理解するのにそれほど苦しんでいるようには見えません。さらに、教授が説明をたまに飛ばすため、いつも授業には必死に耳を傾け、わからないところをなるべく解決しようと心掛けています。幸い、クラスメイトにも恵まれているため、いつも友人たちに助けてもらっています。

◎Engaged Citizenship [Diversity Conference] (Oct. 6th, 7th, and 8th)

金曜日から日曜日までの週末を利用して、フィンドレー大学の国際課が開催するイベントに参加してきました。小タイトルのように、ディスカッションが主な活動で、今現在、物議を醸している人種についての問題や異文化理解について話し合い、自分の考えを深めるという目的の元、開催されました。アメリカでかつて起きた独立戦争や現代のトランプ政権まで、幅広く話し合いました。周りはほとんどネイティブの学生だったため、ディスカッションになんとか食らいつきながら自分の考えを表現していききました。そして、自分がアメリカという国に対してわずかな理解しかもっていないということに気づかされました。時折、アメリカの歴史や人種についての話し合いに全くついていけなかったからです。人々の会話は、主に過去のことが基づいています。当たり前のことですが、アメリカ人同士での会話には少なからず、文化や歴史が影響しています。そのようなことに対する理解を深めていく必要性を感じたとともに、それがアメリカという国のコミュニティーになじんでいくきっかけになりうると思いました。言語と文化は密接に結びついており、その両方を学んでいくことの大切さを肌で実感しました。これからも、恐れずにコミュニティーに飛び込み、アメリカの文化を学んでいこうと思います。



今月の報告は以上になります。来月の報告書からは、引き続き授業の紹介、フィンドレー大学の部活について、そして Fukui Reception についての紹介を行ってきたいと思います。

